

今月の特集

誰もが活躍できる 農業・農村を 目指して

水士里ネット胆沢平野
岩手県奥州市・金ケ崎町



左から、理事の吉田あや子さん、水士里ネット胆沢平野の職員・千田祐介さん、理事の門脇諭美さん、理事長の千田公喜さん、理事の佐々木育子さん、理事の五嶋義明さん。

水士里ネット胆沢平野のシンボリック的存在で日本最大級の円筒分水工（写真右）。令和5年3月24日に行われた胆沢平野土地改良区通常総代会（写真左）。

多様な人材がつながり、共に進む。 地域の農を守るために——

～女性の理事登用のプロセスを学ぶ。理事・総代へ説明を尽くす。候補者と決めたらプッシュ～

組織が一丸となり
3人の女性理事が誕生

令和4年夏、水士里ネット胆沢平野が率先して取り組んだのが、土地改良団体における男女共同参画。「全国の土地改良区（土地改良区連合を含む）において、理事に占める女性の割合を2025年度までに10%以上にする」という国の成果目標を受けて、すぐに協議を開始。定款を変更し、令和5年2月に迫る役員改選に向けて緊急理事会や総代説明会を重ね、管内の3地区から各1名の女性理事を選任。令和5年2月、水士里ネット胆沢平野に3人の女性理事が誕生した。

理事に就任したのは、胆沢・金ヶ崎町地区の門脇諭美さん、水沢地区の佐々木育子さん、前沢地区の吉田あやさんの3人。長きにわたり男性社会が続く土地改良区において、理事就任を承諾することに迷いはなかったのか。そして、この短期間の中で理事長はどのように取り組んだのか。一方で、男性理事や水士里ネット胆沢平野の若手職員はどのように受け止めたのか。水士里ネット胆沢平野の男女共同参画に

おける先進的な取り組みをご紹介します。（以下の記事は、令和5年3月24日に取材したものです）
性別や世代を超えたつながりが土地改良を豊かにします

水士里ネット胆沢平野の千田理事長と3人の女性理事が語り合いました。

千田：就任されて1か月ですが、皆さんは前向きな意見を積極的に言ってくたさるのでありがたく思っています。



和やかな雰囲気で行われた理事長と女性理事3名の対談。



令和5年2月より理事長を務める千田公喜さん。

——実際、女性理事登用に関しては大変なこともあったのではないですか？

千田：及川前理事長から伺った時はなにしる初めてのことでしたので中には反対意見もありました。しかし、女性の声がこれからの土地改良区には必要であり、私たちが全国で先陣を切るという強い気持ちを持って、通常の理事会だけでなく、緊急理事会や総代説明会など順を追って、地区に分けてきちんと説明して進めていきました。

——理事長ご自身は男女共同参画について、どのようにお考えですか？

千田：水士里ネット胆沢平野にも管理職の女性が在籍していますし、若

手職員もいます。性別や世代を超えて、さまざまな人の意見を聞いて物事を進めていくことが大切だと考えています。

吉田：理事長の人柄もあって何でも遠慮なく言いやすい環境にあることが、私たちにとってはうれしいことです。

千田：例えば、皆さんから経費削減につながる意見を頂きましたね。理事会に必ずお弁当を出していましたが、「早く終了する時はお弁当いらないのでは？」と。聞いてハッとしましたよ。

——女性理事の人選はどうされたいたのですか？



新たに女性理事となった佐々木育子さん（左）と門脇諭美さん。



地域でボランティアも行う女性理事の吉田あや子さん。

千田：各地区の総代さんに一任して進めていきました。各地区で総代さんたちが集まって、「この人はこういう面がいい」など話し合って候補者を絞り込んで頂きました。組合員のリアルな声を聞くことが理事の役割ですから、各地区のつながりの中から選出することがベストです。また、Aさんに断られたらBさんというように、候補者を順番に当たるといったのはいけません。断られたから私のところに来たと思われず。一度この人と決めたら、断られても何回でもプッシュすることが大事です。

門脇：夫を通じて土地改良区のごことは知っていました。理事に決まっ



水土里ネット胆沢平野の総務課総務係の係長である千田祐介さん。

**女性理事の意見・考え方が
これからの土地改良区を支えていく**

水土里ネット胆沢平野の職員として今回の取り組みを間近で見てきた千田祐介さんにはどのような思いが感じられるのでしょうか。若手男性職員の立場から伺いました。

「水土里ネット胆沢平野では、職員契約職員の約半数が女性であり、男女共同参画はごく自然なことと感じています。女性理事登用を進める中、理事会や総代会では多くの議論がなされましたが、全体的に建設的な意見でした。女性理事が誕生し、理事会の雰囲気も明るくなりましたね。一般の方に寄り添うような考え方や意見が、今後はとても重要になると考えています」



普段は酒屋の女将さんとして店を切り盛りする吉田あや子さん。

から、議会と同じような場所がある聞いて「えー！」って思い、それから根掘り葉掘り聞いて調べました。

佐々木：私は県の相談員として勤め、その他にもボランティアなど、さまざまな活動をしていました。理事になり、改めて土地改良区の重要性を知りました。

吉田：私は本業が酒屋で、地域の振興会の副会長や読み聞かせのボランティアなども務めています。理事のお話を聞いて面白そうだなと思いました。何でもやってみないとわかりませんし、何かにつながることもあると思っていて引き受けました。

千田：女性に限らず、理事の選出で大切なのは地域のつながりだと思

います。今回、10%以上という国の成果目標で考えると二人でよかったのですが、各地区からお一人ずつ、三人に引き受けて頂いたことが土地改良区にとってベストの結果でした。理事だけでなく、各地区の総代も今後は女性が増えていけばいいと思いますよ。皆さんには期待しています。

門脇：年目なので、一つひとつの事を今だけで判断するのではなく、これまでの経緯を理解した上で、改善できる点があれば提案していきたいと思っています。

佐々木：私も焦ることなく、まずは地に足つけて、土地改良区の仕事をしっかりと覚えて貢献していきたい



菌床しいたけを栽培する門脇論美さん。田んぼではトラクターも運転する。



畑で野菜を育てる佐々木育子さん。以前は福祉関連の相談員としても活動。

いですね。

吉田：今はしっかりと種を蒔く時期だと思えます。フオーとしてくださる方もたくさんいるので、ベストを尽くしたいですね。

千田：皆さんが蒔いた種は、きつと実になりますよ。肩の力を抜いて、そのままの皆さんでいいと思います。今回の女性理事登用は大変なこともありましたが、今後の地域農業を考えると、本当によい取り組みだと思えます。担い手不足など、土地改良区には多くの課題があります。女性理事の声を頂きながら、組合員のために協力して一つひとつ丁寧に進めていきましょう。

**女性理事の候補者選びは
男性が地域とつながることが大切**

初めての通常総代会を終えた女性理事たちの今の心境は――。

佐々木：役割として、私と吉田さんは総務で、門脇さんは事業担当ですが、本当にこれからがスタートですね。

吉田：私は家族に組合員がいないので身近な地区の総代さんに色々とお話を聞いています。

門脇：私は農業法人の代表をしている夫と色々話をしていますが、せっかく理事になったのだから、子どもたちにも土地改良区のことを伝えていきたいと思っています。

佐々木：理事になって初めて一緒に合う三人ですが、朝「おはよう」といってだけで心強い気持ちになります。

吉田：世代も経歴も違うこの三人で土地改良区にとってもよかったです。はないでしょうか。男性理事も総代さんでフレンドリーですね。

佐々木：男性理事は総代出身の知識が豊富なので、色々アドバイスを頂けるとうれしいです。私は理事になる時、全国に女性理事が何人いるのか調べたら、ほとんどいなくて驚



1か月前に初めて会ったとは思えないほど、仲の良さを見せてくれた3人。

きました。

――女性理事の登用は、候補者の選定や承諾を得ることが難しいということですか。

吉田：おそろしく、男性が地域の女性と接点を持たないことが一つの原因だと思えますよ。

佐々木：男性のほつが、地域とのつながりが希薄なのかもしれませんね。

門脇：男性が必死になって探すのがすこいですね。理事長の言う通り、地域のつながりが大切だと思います。

吉田：熱意を持って説明すれば大丈夫ですよ。あと、私たちが嫌々やっているような姿では誰もやってくれないから「楽しいよ！」って。

佐々木：そう、土地改良に関わる全国の女性に向けて、女性理事は色々意見や言葉をよ。楽しいよ！って私たちが示していけるようにしたいですね。

性別にかかわらず個性と能力の発揮が求められています。

項目	目標値 (期限)	計画策定時の 数値	最新値	
土地改良区 (連合含む)の 理事に占める 女性の割合	女性理事が登用 されていない 組織数	0 (令和7年度)	3,737 / 3,900 (平成28年度)	3,911 / 4,199 (令和4年度)
	理事に占める 女性の割合	10% (令和7年度)	0.6% (平成28年度)	0.8% (令和4年度)

【令和7年度までの成果目標の達成】

定数の変更や員外理事を設定する定数変更について、予め総(代)会で議決する必要があります。総(代)会が年1回の機会、令和5年度、6年度に定数を変更しておく必要があります。農林水産省も改定時期に関わらず、理事定数の増加等に併せ、**員外理事制度を活用した女性理事登用が促進されるよう配慮すること**としています。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度(期限)
定数変更	○	○	○
女性理事選任	○	○	○



3人の女性理事と同じく、令和5年2月に理事となった五嶋義明さん。

**土地改良区に必要なのは
新しい風を入れること**

胆沢地区の総代会を12年間務め、現在は理事である五嶋義明さんはこう語ります。

「土地改良区を変えていくためには新しい風を入れる必要がある。そのために女性理事を登用することにしました。次の改選で女性理事を入れたいと、前理事長からお話を聞いたのは令和4年の夏前です。私の地区では候補者を数名に絞り、先に「やりたい」と手を挙げた方を理事にすることに決めておきました。この地域はほ場整備が進みましたが、担い手不足が大きな課題。一人では何もできません。皆で一緒に土地改良を盛り上げていきたいですね」